



THE  
TREES OF  
JOUMON  
の



第15号

2023, 12.1

水子貝塚公園・水子貝塚資料館ニュース

水子貝塚資料館

検索

資料館 HP

QRコード



編集・発行：水子貝塚資料館

☎ 049-251-9686

〒354-0011 埼玉県富士見市大字水子 2003-1

FAX 049-255-5596

ふじみジュニア  
考古学クラブ

## 氷川前遺跡で発掘調査体験！

11月11日(土)強い北風の中、ふじみジュニア考古学クラブの受講生16名が発掘体験を行いました。ふじみジュニア考古学クラブとは、小学4～6年生を対象に、考古学や地域の歴史に興味を持ってもらいたいと、毎年全5回のプログラムで開催しているものです。

考古学で研究対象にしている土器や石器、竪穴住居跡などの資料は、遺跡を発掘調査することによって得ることができます。いわば発掘調査は考古学の基本です。そこで、富士見市教育委員会生涯学習課の協力のもと、現在発掘調査中の氷川前遺跡で体験を行いました。

氷川前遺跡は、国指定史跡水子貝塚を囲い込むように位置しており、旧石器時代から江戸時代まで様々な資料が発見されている遺跡です。今回調査を行っている地点からは弥生時代、平安時代の住居跡が複数見つかったほか、縄文時代の貝塚も発見されていました。受講生たちは、弥生時代と平安時代の住居跡に分かれて発掘調査を行

ました。

発掘調査では、担当者から遺跡の概要や出土した土器、発掘調査の進め方などの説明を受けたあと、いよいよ発掘体験がはじまりました。普段とは違うスコップの持ち方に最初は緊張した面持ちでしたが、コツをつかんでくると、目を輝かせながら楽しそうに掘り進めていました。土器を見つけると、スコップで傷をつけないように慎重に調査をする様子は、真剣そのものでした。

受講生からは「土を掘るのが想像以上に硬くて大変。毎日やっているのはすごい」や「掘り方ひとつにもこだわりがあって、もっと詳しく学びたいと思った」「スコップが固いものに当たった時のワクワクが忘れられない。また参加したい」「弥生時代と平安時代の土器を見分けられるのがすごい」などの感想を聞くことができました。

ふじみジュニア考古学クラブは来年度も開催する予定です。小学生の皆さん、来年は参加してジュニア考古学者の仲間入りをしてみませんか。





縄文時代には矢の先につける石鏃<sup>せきさく</sup>や物を切る石匙<sup>いし</sup>といった小型の石器が多用されました。これらの石器は黒曜石やチャートなどの固くて加工しやすい石を材料とし、形や大きさもほぼ決まっていました。こうした定形的な石器に対して、ちょっと変わった形をした石器もわずかにあります。異形石器といわれており、実用性に乏しく何に使ったのかよくわかっていません。

北通遺跡からも異形石器が出土しています。人という字や錨<sup>いかり</sup>の形のように二股で先端が反りあがる独特の形をしています。チャート製で、大きさは縦 3.7cm、横 5.1cm を測ります。つまみ部分には小さなえぐりがあり、紐を結びつけたのかもしれませんが。この形を作り出すのはとても難しく、達人レベルの熟練の技術をもった縄文人によるものだと思われます。表面がスベスベしており、

いつも何かでこすられていたと思われます。物を加工するための石器というよりも、ペンダントのように身に着けた装身具の一種だったかもしれません。いずれにしても特別な石器だったことは間違いないでしょう。

神奈川県相模原市の大地開戸遺跡<sup>おおちかいと</sup>からも、北通遺跡とまったく同じの異形石器が出土しています。チャートを石材としており大きさもほぼ同じです。広範囲での縄文人の文化交流を明らかにする手がかりとなる石器かもしれません。



北通遺跡出土の異形石器



大地開戸遺跡出土の異形石器

### 全国史跡整備市町村協議会一行が水子貝塚を視察

全国史跡整備市町村協議会とは、全国の史跡・名勝・天然記念物及び重要文化的景観の所在する市町村によって組織されている団体です。史跡保全議員連盟や文化庁と連携を図りながら史跡等の保存と活用をより一層進めていくことを目的としています。令和5年8月時点で629市町村が加盟しています。

毎年、全国持ち回りで秋に全国大会が開催され、総会のほか開催地の史跡の視察研修や会員の情報交換を行っています。第58回となる今年は、川越市を主会場として10月4日（水）から6日（金）までの日程で開催されました。大会前日の

3日（火）には、協議会事務局の三島市長や史跡保全議員連盟の国会議員の皆さんが水子貝塚を視察しました。5日（木）の視察研修は、古墳コース、貝塚コース、中世城館コース、秩父コースの4コースに分かれて行われました。水子貝塚は真福寺貝塚（さいたま市）、黒浜貝塚（蓮田市）、神明貝塚（春日部市）

と共に貝塚コースとなり、約40人の全国各地の自治体の文化財担当職員が視察に訪れました。



### 第9期 市民学芸員養成講座

8月26日（土）から第9期市民学芸員養成講座がはじまりました。これは富士見市の歴史や文化、資料館でのボランティアに興味がある方に向けて3年に1回開催する講座です。全8回にわたる基礎講座では、富士見市の旧石器時代から平成時代までのあゆみ、資料館と市民協働についての講演、水子貝塚・難波田城両資料館の体験事業を学びます。この基礎講座を修了すると、1～3月に開催する専門講座を受講することができます。専門講座も修了すると市民学芸員として登録がで

き、資料館ボランティアとしての活動がはじまります。

第7回目では体験事業の実践ということで、水子貝塚資料館の体験の中でも一番人気のまが玉づくりを行いました。現役の市民学芸員も指導にあたり、まが玉の作り方はもちろんのこと、体験参加者へのアドバイスの仕方なども教わりました。

